

山名・山域	南ア前衛 鳳凰三山・早川尾根・北沢峠
山行目的	秋の早川尾根を歩く（逆コースを2015年計画も台風で中止のリベンジ）
山行期間	2017年9月30日～10月2日 山中2泊3日
参加者	1名

### 《30日～1日鳳凰三山縦走》

三山を縦走し青木鉱泉へ下山するSパーティと途中まで一緒に行動し、好天と大展望に恵まれた極めて満足度の高い山行となった。パーティの皆さんに感謝。夜叉神登山口から鳳凰三山～トンドコ沢下降の詳細はSパーティにお願いするとして、ここでは感激で誰もが感嘆の声を上げた絶景ポイントを三点挙げたい。

- ① 夜叉神峠で白峰三山が初登場・・・カラツ林の中の九十九折状登山道を約1時間、夜叉神峠小屋の広場で初めて白峰三山の全貌が現れる。これから歩く縦走路からの展望への期待が一気に膨らむ一瞬だ。
- ② 森林限界を越えた砂払岳から見る北岳の大迫力・・・単調な樹林帯の登りに厭きた頃、花崗岩の砂払岳山頂に出る。眼前に北岳の雄姿が鎮座し、明日歩く薬師岳がスッキリと現れる。
- ③ 三山最高峰の観音岳山頂に着くと地蔵岳のハリスが「ひょいと登場」する・・・下界からも見える印象的なハリスが目の前にある臨場感はこちらまで歩いてきた人のみの専権だ。白峰三山、富士山、八ヶ岳等々周囲の大展望は圧巻と言える。

### 《1日～2日早川尾根縦走》

山行二日目の午前9時前に「アカ沢の頭」でSパーティと別れる。大岩の脇から縦走路に入ると突然路が細く、ハマツ漕ぎになる。まるで正面玄関から通用口に回された雰囲気だ。小さなピークを越え「高峰」に着く。この辺から眺望の主人公に仙丈岳の雄姿が割り込んでくる。周りには大学のワグネルの連中やテント山行の数名が居るだけだ。ここから白鳳峠までは急下降となる。やがて周囲は樹林帯になり小広い峠に降り着く。ベンチと立派な道標が据えられている。ここまで約1時間30分。大半はここから広河原へ下山する模様だ。この後「赤薙沢の頭」方面に抜けるのはワグネル部と自分だけになってしまう。鳳凰三山の喧噪と真反対の静寂だ。数年前の台風による崩壊地はトラロープとピシクテープで迂回して危険はない。寂れた感じの広河原峠で下降路を左に分け早川尾根小屋に向かう。ワグネル部も下山しようとうとう1人になる。樹林帯のなかを歩くこと30分、突然早川尾根小屋が現れる。平坦で草地の快適そうなテツ場があり、水も豊富に流れている。現在12時27分。北沢峠まで約5時間と読んでここで幕営とする。テツを張り終え、日向ぼっこをしながら「ハペロンチー」を肴に焼酎を飲む。280ccしか無いので慎重に薄める。16時頃やっと単独行者が到着しテツは2張となる。夕食は「キノコライス」と「豚汁」。19時就寝。

4時半起床。よく寝たので元気だ。塩ゴマまぶしの白米とポタージュで朝食を摂り、水分補給にお茶を何杯も飲む。

6時テツ場発。樹林帯の登りを行く。2464ピークと2553ピークを越えると「ミヨの頭」が現れる。木の根っこや小枝を掴みながら急登を登る。木の樹液で手がぬぐぬぐとする。目の前の甲斐駒がグングン大きく、迫力を増してくる。やっと「アサ峰」の頂上が見えてくる。直下の岩稜帯を登り、ハマツ帯を抜けると「アサ峰」頂上に着く。

8時04分到着。珍しく「au」の柱が立つ。大岩の上に質素な木札があり頂上とわかる。今日初めての登山者と会う。風が強く寒い。昨日までと違い雲の流れが早く、天気は下り坂だ。「甲斐駒ヶ岳」が目の前にある。摩利支天と白ザレが印象的だ。栗沢山までは岩岩の登山道を行き、最後はハマツ帯となる。ここからも眺望は良いはずだが雲海が邪魔して今一だ。この新しい茶色の道標はかなり方向がずれているので下山時要注意だ。

仙水峠までの下降路を用心深く下り、岩岩の登山道を抜け、仙水小屋を経由して新しい長衛小屋に11時下山。丁度11時15分北沢峠発のバスに間に合い、広河原経由で13時に芦安温泉郷着。温泉とビールで1人反省会とする。留守宅のSiさんお世話になりました。

以上